

令和 5 年度
第 63 回定例総会
議 案 書

令和 5 年 4 月 26 日（水）13：30～14：50

技術士センタービル&Zoom によるオンライン



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

目 次

1. 令和4年度の事業報告	3
まえぶん	
1) 総会・商議員会・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
2. 常設委員会活動報告	10
1) 表彰委員会	
2) ユースネットワーク委員会	
3) 第57回地盤工学研究発表会実行委員会	
3. 令和4年度決算報告	15
1) 決算報告	
貸借対照表	
正味財産増減計算書	
財産目録	
2) 会計監査報告	
4. 本部・支部表彰	18
1) 永年会員への感謝状の授与	
2) 支部表彰の授与	
5. 規定の改訂	19
支部表彰規定の一部改訂	
6. 令和5年度の事業計画	20
まえぶん	
1) 総会・商議員・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
7. 令和5年度の予算	23
8. 講演会等会費、Zoom開設ルールなどについて	24
9. その他	
巻末資料	
役員名簿 支部規程	

1. 令和4年度の事業報告

まえぶん

1. 公益出版事業〔公1〕

「液化化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」と流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行った。

2. 調査・研究事業〔公2〕

コロナ禍をのりこえ、本来の活発な支部活動に戻すことを目指し、イベントの開催形式については、支部や地域の人的交流を促進する観点と参加機会増加による会員サービス向上の観点から、可能な範囲で対面形式とオンライン形式の並立をはかった。

新潟市で開催された第57回地盤工学研究発表会の実行委員会に協力した。若手による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施した。

初めての試みとして、オンライン形式での現場見学会（報告会）を実施して、好評を得た。

3. 技術推進事業〔公3〕

例年に準拠し、セミナー、現場技術者のための講習会など、オンライン形式を多用して開催した。富山県との災害協定に基づき県内自治体職員に対する研修会を開催した。初めて企画した特に大学の先生らによる土質力学講座をシリーズ形式で行って多くの参加者があった。また建設コンサルタント協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指した。

4. 表彰関連事業〔公4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い、技術部門1件、研究・論文部門1件、企画部門1件の表彰をした。

1) 総会、商議員会、幹事会の開催

(1) 第 62 回定例総会

日 時：令和 4 年 4 月 26 日(火)13：30～14：50

形 式：Zoom によるオンライン

参加者：会員 69 名 委任状 9 名 計 78 名

(2) 商議員会

日 時：令和 5 年 2 月 22 日(水)13:30～14:55

形 式：金沢勤労者プラザでの対面、Zoom によるオンラインのハイブリッド形式

商議員参加者： 28 名 委任状 4 名 計 32 名

(3) 新潟地区幹事会

日 時：令和 4 年 6 月 2 日(木) 13:30～

形 式：ZOOM によるオンライン会議

参加者： 7 名

(4) 石川地区幹事会

日 時：令和 4 年 6 月 13 日(月)18:30～

形 式：ZOOM によるオンライン会議

参加者：19 名

(5) 富山地区幹事会

日 時：令和 4 年 6 月 2 日(木)15:00～

形 式：対面形式

参加者：15 名

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会・現場見学会等の開催

(1) 総会時の特別講演会

日 時：令和 4 年 4 月 26 日(火)15:00～17:00

形 式：ZOOM によるオンライン

題 目：「自然災害への対時的な防災・減災 から の脱却」

講 師：飯塚 敦 先生

神戸大学都市安全研究センター 神戸大学大学院工学研究科市民工学教授

参加人数 156 名

(2) 地盤工学会と富山県との災害協定に基づく研修会

日 時：令和4年8月26日（金）13:00～17:00

形 式：ZOOMによるオンラインとNIXホールでの対面形式

題 目：「地盤工学技術者のための斜面安定対」

講 師：奥園 誠之 先生

地盤工学会・日本応用地質学会；名誉会員（公財）高速道路調査会；フェロー
（株）高速道路総合技術研究所研究アドバイザー

題 目：「自然災害への備えについて」

講 師：太田 秀樹 先生

中央大学研究開発機構 教授。

参加者 県関係 32 名 学会関係 121 名 合計 153 名

(3) とやまジオテクセミナー「エネルギーと地盤工学」

日 時：令和4年9月30日（金）14:00～17:30

形 式：ZOOMによるオンライン

題 目：「放射性廃棄物の地層処分に関わる地質環境調査」

講 師：岩月 輝希 氏（理学博士・技術士）

日本原子力研究開発機構（JAEA）核燃料・バックエンド研究開発部門
幌延深地層研究センター 深地層研究部

題 目：「地熱発電計画における地盤の問題について一立山カルデラの例」

講 師：竹内 章 先生

富山大学名誉教授

参加者 24 名

(4) 第17回 地盤調査法講習会

日 時：令和4年10月7日（金）13:00～15:10

場 所：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所 敷地内

講習内容：（1）原位置試験（ボーリングコア説明，サウンディングの講義と実技）

（2）室内土質試験（土質試験の講義と実技）

（3）物理探査（地中レーダ探査，磁気探査の講義と実技）

参加者 16 名

(5) 第 85 回土質工学最新情報コロキウム

日 時：令和 4 年 10 月 28 日（金） 13:30～16:30

形 式：ZOOM によるオンライン形式

題 目：「住民参加型斜面計測・モニタリングシステム構築の現状と課題ー新しい地域防災活動のあり方」

講 師：小山 倫史 先生

関西大学社会安全学部 教授

題 目：「珠洲市付近の活発な地震活動について」

講 師：平松 良浩 先生

金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系 教授

参加者 46 名

(6) 「現場技術者のための土質力学：第 9 回」

日 時：令和 4 年 11 月 25 日（金） 13:30～16:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：「土構造物に係る室内土質試験」ー土質試験の実務と勘どころ！ー

講 師：江守 達弥 氏

協同組合土質屋北陸 試験センター長

題 目：「雨・地震に弱い土を強くする」

ー補強土工法によって自然災害に強い土構造物を造るー

講 師：岡本 正広 氏

(株)弘洋コンサルタント 技師長 いさぼうネット技術顧問

参加者 56 名

(7) 土質力学講座 第 1 回

日 時：令和 4 年 11 月 28 日（月） 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【土の基本的性質と土の締固め】

土の締固めについて、土の基本的性質とともに基本的な事項を説明する。その際、不飽和土の力学から締固め機構について説明する。

講 師：金澤 伸一 先生

新潟大学工学部工学科 准教授

参加者 97 名

(8) 朝日温海道路 11 号トンネル工事 説明会

日 時：令和 4 年 11 月 29 日（火） 13:30～15:00

形 式：Zoom によるオンライン形式

場 所：新潟県村上市「朝日温海道路」建設事業 11 号トンネルの掘削工事現場

講 師：国土交通省 北陸地方整備局 羽越河川国道事務所

大成・岩田地崎特定建設工事共同企業体

参加者 106 名

(9) 「東海北陸自動車道 真木トンネル工事」現場見学会

日 時：令和 4 年 12 月 9 日（水） 13:30～17:00

形 式：バスを使つての現地見学

場 所：東海北陸自動車道 真木トンネル工事現場 五箇山 IC 近く

講 師：中日本高速道路(株) 金沢支社 富山高速道路事務所 4 車線化推進室

参加者 12 名

(10) 土質力学講座 第 2 回

日 時：令和 4 年 11 月 28 日(月) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【圧密と観測的沈下予測】

有効応力と圧密理論の構成、適用限界を理解する。観測的沈下予測の重要性についても講述する。

講 師：大塚 悟 先生

長岡技術科学大学 教授

参加者 96 名

(11) 第 2 回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会

日 時：令和 4 年 12 月 20 日（火） 13:00～16:15

形 式：Zoom によるオンライン形式

プログラム

・研究発表（13 時 05 分～15 時） 学生による研究話題提供。

発表時間 9 分以内、質疑 4 分。 ブレイクアウトルーム利用による複数会場

・学生交流会（15 時 10 分～16 時 10 分）

学生のみ参加可能 ブレイクアウトルーム利用による 4～5 名程度のグループ懇談

・優秀発表者賞表彰式（16 時 10 分～16 時 15 分）

参加者 56 名

(12) 土質力学講座 第3回

日 時：令和5年1月16日(月) 16:00～17:30

形 式：Zoomによるオンライン形式

題 目：【せん断】

土のせん断挙動について、砂と粘土を比較しながら説明する。強度定数 c 、 ϕ の取り扱いのみならず、排水条件によりせん断強度が大きく変化する理由について理解を深める。

講 師：豊田 浩史 先生

長岡技術科学大学 教授

参加者 101 名

(13) 地盤工学に関わる実務者報告会：石川地区

日 時：令和5年1月26日(木) 13:30～16:30

形 式：金沢勤労者プラザでの対面と Zoom によるオンライン形式のハイブリッド

題 目：「令和4年8月 梯川水系の水害とその対策」

講 師：大井 秀紀 氏

石川県土木部河川課 課参事

題 目：「2022年8月北陸豪雨災害対応」

-改良土による決壊した堤防の早期復旧-

講 師：道 勇治 氏

株式会社 吉光組

題 目：「災害復旧設計の留意点」

講 師：森影 篤史 氏

株式会社 日本海コンサルタント

参加者 100 名

(14) 土質力学講座 第4回

日 時：令和5年2月15日(水) 16:00～17:30

形 式：Zoomによるオンライン形式

題 目：【浸透】

地盤中の水の流れについて、基本的な事項を説明する。教科書的な浸透に関する内容のほか、浸透破壊や浸食についても説明する土のせん断挙動について、砂と粘土を比較しながら説明する。

講 師：福元 豊 先生

長岡技術科学大学 准教授

参加者 90 名

(15) 土質力学講座 第5回 予定

日 時：令和5年3月13日(月) 16:00～17:30

形 式：Zoomによるオンライン形式

題 目：【液状化】

液状化の発生メカニズム、強度特性に及ぼす諸要因と対策工の考え方を、砂のせん断挙動と関係づけながら解説する。

講 師：保坂 吉則 先生

新潟大学 助授

参加者 96 名

2. 常設委員会活動報告

1) 表彰委員会

1、委員会の開催：

令和4年12月27日（月）10:00～12:00

第1回表彰委員会（オンライン）、大塚、倉重、黒坂、村尾、森影

令和5年1月27日（金）10:00～11:00

第2回事前表彰委員会（オンライン）、大塚、倉重、村尾、森影、高原

令和5年1月30日（月）10:00～10:30

第2回表彰委員会（オンライン）、倉重、黒坂、村尾、森影、高原

令和5年2月6日（月）第3回表彰委員会（メール審議）

2. 審議内容

第1回表彰委員会時点で、研究・論文部門1件、技術部門1件の推薦がなされていたが、委員会の議論から複数の候補案が提出された。

最終的に研究・論文部門は石川高専の新保先生、金沢大学の山栗氏の推薦がなされた。技術部門に関しては、北陸地方整備局の栗ノ木バイパスなどの候補も挙げられたが、資料の準備等から石川県土木部ならびに金沢市土木局の金沢外環状海側幹線（IV期）工事が対象となった。

また、企画部門では、地盤工学研究発表会で初のハイブリッド開催を成功裏に終えた功績から大会実行委員会の事務局が推薦された。

功績部門に関しても意見交換がなされたが、今回は見送られた。

3. 審議結果

(i) 技術部門 技術賞

①候補者：石川県土木部および金沢市土木局

対象技術：金沢外環状道路海側幹線（IV期）事業

推薦理由：

これまでのⅠ～Ⅲ期事業と異なり、盛土高さが最大10m程度と河北潟周辺の軟弱層としては、条件の厳しい設計・施工となっており、砂質土および軟弱な粘性土の互層のため液状化と地盤沈下の両方を解決する必要があった。深層混合処理工法が確立していない時期には高盛土構造を高架化で対処せざるを得なかった前例もあることから、地盤改良技術の進歩が示された対策工事といえ、表彰に値するとの意見で一致した。

(ii) 論文・研究部門 論文賞

①候補者：新保泰輝氏（石川工業高等専門学校）

対象論文：

Effect of water contents and initial crack lengths on mechanical properties and failure modes of pre-cracked compacted clay under uniaxial compression, Engineering Geology, Vol.301, pp. 106593, 2022

推薦理由：

一軸圧縮試験によって破壊靱性値を求め実験式を提案しており、今後、亀裂伸展理論への応用が期待できるものである。締固めた粘性土供試体に対して亀裂を生成する方法を提案し、異なる含水比・初期亀裂長さの供試体に対し、総計 116 本の一軸圧縮試験を行って、含水比や初期亀裂長さによって物理特性（変形係数、強度）、破壊靱性値や破壊形態に違いがあることを明らかにしている。特筆すべきは破壊力学と非排水試験の特性を組み合わせることで破壊靱性値を求めて、含水比や強度から破壊靱性値を求める実験式を提案している点、締固めた粘性土にはこれまでに数多く研究されてきた岩石とは異なる破壊形態が存在することを示した点にある。これらの成果によって、Engineering Geology (I. F. 6. 902, 2021 年) という高いインパクトファクターを持つ雑誌に掲載されていることもあり、表彰に値するとの意見で一致した。

(iii)論文・研究部門 論文奨励賞

①候補者： 山栗祐樹 氏（金沢大学研究員）

対象論文：

混合型剛塑性有限要素法による傾斜荷重を受ける浅い矩形基礎の 3 次元支持力解析, 土木学会論文集 A2, 77(2), pp. I_193 - I_204, 2021 2022

推薦理由：

基礎構造物設計で用いられる支持力評価式は、2 次元解を基に経験的に 3 次元に拡張したものであるが、極限支持力をより正確に評価するためには、複雑な基礎形状や荷重条件を考慮できる数値解析手法が有効で、著者らのグループはこれまでに、3 次元混合型剛塑性有限要素法を開発している。

対象論文は特に砂質地盤の矩形基礎の 3 次元解析の部分の論文であるが、従来から開発されてきた有限要素法自体が、力学の数理的構造を活かしたモデル化に独創性が認められ、また粗い剛体基礎と地盤の相互作用について新たなモデル化を提案しており、対象論文の解析結果は計算力学的に見て信頼性も高く、現行の設計手法の精度向上に貢献可能で、実務への活用も期待できることから、表彰に相応しいという意見で一致した。基礎と地盤の摩擦抵抗を伴うすべりの考慮など、一般化に向けて研究がまだ途上であることを考慮して、論文奨励賞が妥当であるという結論となった。

(iv)企画部門 企画賞

①候補者： 第 57 回地盤工学研究発表会実行委員会事務局

対象：ハイブリッド式地盤工学研究発表会の企画および運営

推薦理由：

ハイブリッド形式での初の全国大会の開催であり、実質的に2大会を同時開催するに等しい準備が必要であった。通常は事務局は会計と調整を行うが、今大会ではハイブリッド開催のリハーサルを何度も行い、機材の構成を含めて業者本部委員との競技を重ねられた。通常と異なる大会運営であったため、本部や各部会、会場との折衝も非常に困難であったにも拘らず、無事成功裏に終わることができたのは事務局の尽力が大きかったのとの意見が多かった。実行委員全体を表彰する意見も出されたが、事務局を代表として表彰するのが妥当であるとの意見で一致した。

2) ユースネットワーク委員会

- ・北陸支部ユースネットワーク 第2回研究発表会
- ・開催日時：2022年12月20日(火) 13:00～16:15
- ・会場：オンライン (Zoom Meeting)
- ・参加人数：56名

北陸支部ユースネットワーク委員会では、昨年に続き、学生を対象とした標記イベントを開催しました。地盤工学に関心のある学生間の地域ネットワークを構築し、各自の研究活動のモチベーションを高めてもらうこと、また支部活動の活性化を促すことを目的として開催しました。

研究発表会に先立ち、小林委員長からは「今後の北陸支部の発展のため若手のネットワーク構築と、若手の交流の場として活用してもらいたい」との挨拶がありました。

研究発表会はオンライン (Zoom Meeting)にて開催しました。前半は発表者を学生に限定した研究発表会を実施し、6セッションで計37件の研究発表がありました。そのうち、9件を優秀発表賞として表彰しました。

後半は学生の交流行事を実施し、ブレイクアウトルームにて各大学・研究室紹介の後、少人数グループでフリートークを実施しました。

3) 第57回地盤工学研究発表会（新潟大会）実行委員会報告

(1) 大会概要

開催地：新潟県新潟市

会場：朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)、新潟日報メディアシップ、NICO
プラザ

※新潟日報メディアシップは市民向け講座会場。NICOプラザは本部関係の
議会場

開催期間：2022年7月20日(水)～23日(土)

※会場設営準備：朱鷺メッセ7月19日(火)、新潟日報メディアシップ7月23
日(土)AM

(2) 参加数

①発表論文数

831 件〔正会員：412 件，正会員(若手)：414 件，プレミアム会員：5 件〕

②技術展示とバナー広告

- ・技術展示件数：65 ブース（60 団体，5 団体は 2 ブース連結）

特設 Web ページは，58 団体が利用

- ・バナー広告：33 件（民間企業:27 件，協会・研究会:6 件）

③参加登録者数

1,754 人（事前参加登録者 1,614 人，技術展示特典無料参加登録者 140 人）

※事前参加登録者には，プレミアム会員 25 人含む

④現地参加者数(来場者数)

1,186 人（参加登録者の 67.6%が現地参加）

(3) 開催行事の概要

行事	形式	開催日	会場	開催概要
一般発表，DS，特別セッション	ハイブリッド	7/20～22	朱鷺メッセ 第1～12会場	103 セッションに分け，831 件の研究発表が行われた。
展望講演	ハイブリッド	7/21PM	朱鷺メッセ 第1会場	北海道大学の石川達也教授より講演を頂いた。
開会セレモニー	ハイブリッド +YouTube	7/21PM	朱鷺メッセ 第1会場	交流会を中止したため，主催者挨拶と来賓からの祝辞を頂く場として開催。
特別講演	ハイブリッド +YouTube	7/21PM	朱鷺メッセ 第1会場	フォッサマグナミュージアムの竹之内館長より講演を頂いた。
技術展示	現地開催	7/21～22	朱鷺メッセ 展示ホール	無料ドリンクコーナーも併設し，60 団体による技術展示が行われた。また，特設 Web ページは 58 団体を掲載した。
	大会 HP 特設 Web ページ	7/1 から公開	—	
バナー広告	大会 HP トップ画面	6/15 から公開	—	33 団体の広告を大会 HP のトップページに掲載した。
見学会	現場視察	7/22	2 現場	1 日コース(大河津分水+JR 東日本千手発電所，16 人参加)のみ開催した。
市民向け講座	対面形式	7/23PM	新潟日報メディアシップ	2 部構成とし，前半は新潟県防災局，後半は地盤品質判定士協会より講演を頂いた。
弁当販売所	館内販売	7/21～22	朱鷺メッセ	日本旅行に全て任せ，館内での弁当販売(事前予約制)を行った。
その他(学会関係会議)	会場利用者に一任	7/21～22	NICO プラザ	学会本部関係の会議会場として設け，オンライン会議もできるように準備した。

(4) 大会収支決算

収 入：37,993,000 円

支 出：35,485,514 円

収支差：2,507,486 円(利益)

※利益は、『地盤工学研究発表会支部還付金に関する申合せ』に準じて本部と支部に分配

— 新潟大会の収支—

①収入の部

費目	金額(円)	備考
発表申込料	2,066,000	論文数 831 件(内、プレミアム会員 5 件)
参加料	15,229,000	早期申込(割引)1,328 人, 通常申込(割引なし)261 人
広告料	1,650,000	バナー広告 33 件
交流会費	0	開催中止
技術展示参加料	19,000,000	参加団体数 60, ブース数 65(5 団体 2 ブース)
見学会参加料	48,000	1 日コース 16 人
助成金	0	実収入で黒字となったため申請取り下げ
弁当販売	0	実行委員会としての販売は無し
雑収入	0	
収入計	37,993,000	

②支出の部

費目	金額(円)	備考
会場費	11,287,202	朱鷺メッセ・NICO プラザ会議室借料, 各会場設営費など
旅費・交通費	92,430	本部役員・職員
特別講演講師謝礼他	130,000	展望講演と特別講演の講師謝金, 司会者代
印刷費	5,466,042	Confit 使用料及び運用委託費, 本部印刷費, 参加証ホルダー代など
プログラム編成会議費	0	オンラインで対応
アルバイト代	1,307,732	学生アルバイト延 50 人
通信費	37,354	本部宅急便
雑費	359,434	実行委員会・アルバイト弁当代, 文具代, 熱中症対策費(お茶)
実行委員会費	215,460	事前会場通信テスト会議室借料, 最終実行委員会会場費
広報費	657,800	新潟日報広告代, キャッチコピー・ロゴマーク制作外注費
交流会費	0	開催中止
技術展示会費用	7,759,400	会場設営委託費(トリンクコーナー含む), 特設 Web ページ管理作業委託費
見学会費	113,260	バス代, 昼食代, 保険料
市民向け行事費	70,400	新潟日報メディアシップ会議室借上代, 会場設営委託費
委託営業管理費	400,000	Confit 決裁手数料
本部事務経費	7,589,000	参加料合計(見学会除く)の 20%
支部事務経費	0	
支出計	35,485,514	

※収支決算は、R4-4 調査・研究部会議(2023/1/12)に報告済み

3. 令和4年度決算報告

1) 決算報告書

正味財産増減計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	540,000	173,000	367,000
調査研究・基準事業収益	71,000	52,000	19,000
講演会等収益	41,000	52,000	△ 11,000
見学会等収益	30,000	0	30,000
技術推進事業収益	469,000	121,000	348,000
講習会収益	469,000	121,000	348,000
雑収益	4	5	△ 1
受取利息	4	5	△ 1
その他	4	5	△ 1
本部交付金	5,208,793	2,530,000	2,678,793
経常収益計	5,748,797	2,703,005	3,045,792
(2) 経常費用			
事業費	2,362,799	1,863,874	498,925
旅費交通費	60,200	53,340	6,860
通信運搬費	356,136	314,320	41,816
消耗什器備品費	41,488	0	41,488
<不可>消耗品費	0	47,317	△ 47,317
印刷製本費	71,215	45,760	25,455
賃借料	224,220	0	224,220
会場使用料	45,660	0	45,660
保険料	16,550	0	16,550
諸謝金	339,320	192,500	146,820
委託費	1,180,000	1,180,000	0
支払手数料	22,880	22,110	770
雑費	5,130	8,527	△ 3,397
経常費用計	2,362,799	1,863,874	498,925
評価損益等調整前当期経常増減額	3,385,998	839,131	2,546,867
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,385,998	839,131	2,546,867
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,385,998	839,131	2,546,867
一般正味財産期首残高	5,269,666	4,430,535	839,131
一般正味財産期末残高	8,655,664	5,269,666	3,385,998
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	8,655,664	5,269,666	3,385,998

貸借対照表 令和 5 年 3 月 31 日現在

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	722, 235	522, 113	200, 122
未収金	0	3, 000	△ 3, 000
令和 3 年度分	0	3, 000	△ 3, 000
前払金	0	17, 967	△ 17, 967
その他	0	17, 967	△ 17, 967
預け金	7, 947, 429	4, 732, 046	3, 215, 383
本部	7, 947, 429	4, 732, 046	3, 215, 383
流動資産合計	8, 669, 664	5, 275, 126	3, 394, 538
資産合計	8, 669, 664	5, 275, 126	3, 394, 538
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	14, 000	0	14, 000
その他	14, 000	0	14, 000
預り金	0	5, 460	△ 5, 460
所得税	0	5, 460	△ 5, 460
流動負債合計	14, 000	5, 460	8, 540
負債合計	14, 000	5, 460	8, 540
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	8, 655, 664	5, 269, 666	3, 385, 998
正味財産合計	8, 655, 664	5, 269, 666	3, 385, 998
負債及び正味財産合計	8, 669, 664	5, 275, 126	3, 394, 538

財産目録 令和 5 年 3 月 31 日現在

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
預金	普通預金		722, 235
	第四北越銀行 白山支店		722, 235
預け金			7, 947, 429
本部			7, 947, 429
流動資産合計			8, 669, 664
資産合計			8, 669, 664
(流動負債)			
前受金			14, 000
その他			14, 000
流動負債合計			14, 000
負債合計			14, 000
正味財産			8, 655, 664

2) 会計監査報告

会計監査報告

2023 年 4 月 14 日

公益社団法人地盤工学会北陸支部 殿

公益社団法人地盤工学会北陸支部

会計監査委員 開米浩久 

会計監査委員 道 勇治 

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの 2022 年度における会計監査及び業務の監査を行い次のように報告する。

- (1) 2022 年度公益社団法人地盤工学会北陸支部の収支計算、正味財産増減計算書、貸借対照表は法人の収支状況及び財産状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告の内容は適正であると認める。

以上

4. 本部・支部表彰

1) 永年会員への感謝状の授与

特別会員表彰会員

会員番号	社 名
5950270	株式会社興和 (60 年)
5950280	株式会社日さく新潟支店 (60 年)
6350030	北陸電力株式会社土木部 (60 年)
8850060	株式会社植木組土木技術部 (35 年)
1250760	昭和建設株式会社 (10 年)
1250030	東洋建設株式会社北陸支店 (10 年)
1252212	金沢大学環境デザイン学類地盤工学研究室 (10 年)
1252215	株式会社フタカワ (10 年)

永年会員表彰

会員番号	氏 名	在会年
8012385	松田 克志	42
8902676	鴨井 幸彦	33
9006643	森井 俊広	32
9208553	土田 潤一	30
9300796	武本 和幸	30

2) 支部表彰の授与

技術部門 技術賞

石川県土木部および金沢市土木局

対象技術: 金沢外環状道路海側幹線 (IV期) 事業

論文・研究部門 論文賞

新保泰輝 氏 (石川工業高等専門学校)

対象論文: Effect of water contents and initial crack lengths on mechanical properties and failure modes of pre-cracked compacted clay under uniaxial compression, Engineering Geology, Vol.301, pp. 106593, 2022

論文・研究部門 論文奨励賞

山栗祐樹 氏 (金沢大学研究員)

対象論文: 混合型剛塑性有限要素法による傾斜荷重を受ける浅い矩形基礎の 3 次元支持力解析, 土木学会論文集 A2, 77(2), pp. I_193 - I_204, 2021.

企画部門 企画賞

第 57 回地盤工学研究発表会実行委員会事務局

対象企画: ハイブリッド式地盤工学研究発表会の企画および運営

5. 規定の改訂

公益社団法人地盤工学会北陸支部表彰規定

第7章 表彰

現行

第11条 総会において支部長が賞状を授与する。

改訂

第11条 総会において支部長が賞状等を授与する。

以上

6. 令和5年度の事業計画

まえぶん

昨年度はコロナ禍が収束しなくて引き続き支部活動の開催形式はオンライン形式で行う事が余儀なくされた。今年度の開催形式は、支部や地域の人的交流を促進する観点と参加機会増加による会員サービス向上の観点から、可能な範囲で対面形式を取り込みたい。イベント数や予算規模としてはコロナ禍以前の8割程度をめざす。

公益出版事業〔公1〕

公益出版事業は「液化化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」と流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行う。大学の先生の講師によって実施された「土質力学講座シリーズ」の資料を印刷製本する。

調査・研究事業〔公2〕

調査・研究事業は災害協定を締結している国土交通省北陸地方整備局、新潟県、石川県と地域防災力向上に関する相互協力に基づいたイベントを企画する。若手、学生会員による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施する。

技術推進事業〔公3〕

技術推進事業はセミナー、現場技術者のための講習会や富山県との災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催する。大学の先生らによる土質力学講座をシリーズ形式で実施する。建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

表彰関連事業〔公4〕

表彰関連事業は支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。

1) 総会・商議員会・幹事会の開催

各地区幹事会は年度の早い時期に開催し、年度予定を確定する。第63回定例総会は4月26日（水）に対面とオンライン併用のハイブリッド形式で新潟市にて開催する。商議員会は令和5年2月下旬に開催する。開催形式はコロナ感染の状況を見ながら、なるべく対面形式を取り入れる。

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会の開催

下表は例年のイベントをまとめたものである。各地区においてはイベント開催日時の平準化を
こころがける。

	イベント名	地区名
1	特別講演会（総会、商議員会時）	全県
2	現場見学会	石川
3	とやまジオテクフォーラム	富山
4	現場技術者のための土質力学	石川
5	地盤工学講演会	新潟
6	ジオテクフォーラム	新潟
7	地盤調査法講習会	新潟
8	現場見学会	富山
9	第 85 回土質工学最新情報コロキウム	石川
10	ジオテクフォーラム	新潟
11	富山県職員研修	富山
12	現場見学会	新潟
13	実務者報告	石川
14	実務者報告	新潟
15	第 86 回土質工学最新情報コロキウム	富山
16	ユースネットワーク研究発表会	全県
17	土質力学講座	全県

7. 令和5年度の予算

R5年4月1日からR5年3月31日まで	R5年度予算	摘要
(1) 経常収益		
① 事業収益	770,000	
公益出版事業収益(公1)	(20,000)	
印刷物配布収益	20,000	
調査研究・基準事業収益(公2)	(550,000)	
講演会等収益	300,000	
見学会等収益	150,000	
研究会等収益	100,000	
技術推進事業収益(公3)	(200,000)	
報告会収益	100,000	
講習会収益	100,000	
② 雑収益	1,000	
受取利息	1,000	
③ 他会計からの繰入額	2,500,000	
本部交付金	2,500,000	
経常収益計	3,271,000	
(2) 経常費用		
① 事業費	1,135,000	
調査研究・基準事業費(公2)	(635,000)	
講演会費	235,000	
見学会費	150,000	
研究会費	250,000	
ジオテクフォーラム・セミナー	100,000	
土質力学講座	50,000	
北陸支部防災会議	50,000	
ユースネットワーク研究会	50,000	
技術推進事業費(公3)	(400,000)	
報告会費	200,000	
講習会費	200,000	
表彰委員会関連費(公4)	(100,000)	
表彰委員会費	100,000	
② 管理費	1,960,000	
旅費交通費	150,000	
通信費	400,000	
賃貸料	70,000	
消耗什器備品費	50,000	
印刷製本代費	50,000	
会場使用料	20,000	
広告宣伝費	5,000	
図書購入費	5,000	
支払手数料	20,000	
雑費	10,000	
事務局委託費	1,180,000	
経常費用計	3,095,000	
当期経常増減額	176,000	
一般正味財産期末残高		

8. 講演会等会費、Zoom 開設ルールなどについて

講演会等の参加費について

基本原則は支部の予算管理については本部からの会員交付金を収益とし、収益、費用がバランスされた運営をすることを原則としている。本部からの会員交付金で足りない分をイベントの参加費で充足する。コロナ禍以前は費用が収益を上回る状況が続いていたが、オンラインでの開催形式になってから、ここ数年は収益が若干上回っている状況である。

このことをふまえて、講演会などの参加費は原則下記のようにする。

- ・コロキアム、特別講演会など、会員は1,000円、非会員は2,000円、学生無料を基本とする。
- ・実務者講演会の発表は失敗事例などオフレコの内容を含み、配布資料がないので参加費を無料とする。
- ・バスを使って行う現場見学会はバス代相当分を参加費にする。
- ・災害協定に基づいて行われるイベントについては災害協定締結先との協議によって参加費を定める。
- ・共催のイベントについての参加費は共催先の参加費と同じ金額とする。
- ・予算の執行状況により、イベント企画役員と事務局で協議の上、原則を変更することがある。

Zoom 開設ルールについて

Zoom ソフトは本部から提供されたもので、ウェビナーについては他支部との調整が必要なことから事前に本部と協議し、本部が作成するウェビナー利用表に記載されることが必要となる。ミーティングについては支部が自由に使ってもよい。

また、CPD ポイントを他の団体（例えば施工管理技士会）に申請する場合にウェビナーから発行される参加記録を他の団体から要求されることがあり、ミーティングでは参加記録が発行されない。

したがって、CPD 登録を他の団体に申請する場合のイベントはウェビナーで行い、日時を決定する際には事前に事務局との打ち合わせが必要となる。

9. その他